

センター通信

「探究」と「対話」
「トライ&エラー」

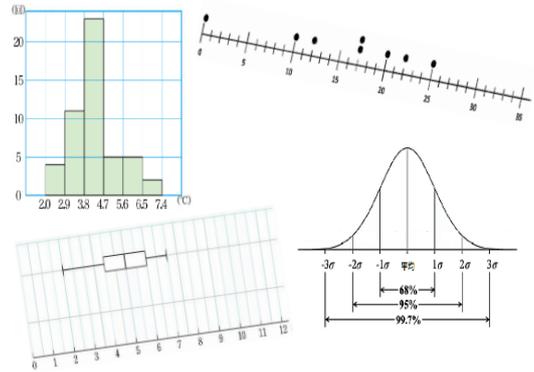


データの活用から見る算数・数学研修

先日、小学校・中学校「算数・数学」研修を奈良教育大学の近藤裕先生をお招きして行いました。『「データの活用」の学習指導について』を題材に統計的な内容に関わる小学校算数に見られる様子や、中学校数学で扱われる教材の特徴などを中心にご講義いただき、小学校・中学校の教員が約30名参加しました。

「データ活用」の領域は他の分野に比べて、まだまだ実践例が少なく、小学校、中学校のつながりを意識した学び方について聴かせていただきました。

また、データの分布をグラフで視覚化することで、特徴が具体的に見え、さらに使用するグラフによって同じデータであっても異なる傾向を見出すことができることや、さまざまな情報が飛び交っているこの社会で、本当に正しいものなのかを判断するために、一度立ち止まり「疑う」という批判的思考も学ぶことが必要であることを教わりました。今後の授業に役立つポイントを数多く学ぶことができた研修となりました。



【受講者アンケートより】

- ・新しく知った表現の仕方が多く、とても楽しかったです。批判的に捉える力を育てるためには、まず多面的に捉える力をつける必要があります、小学校の学習活動でもしっかりと教えてあげないといけないと感じました。
- ・自分自身があまり学んだことのない「データの活用」について小学校・中学校を系統立ててご教示いただき、とても勉強になりました。もしかしらデータの活用は、言語活動と一番深くつながっている内容なのではないかと考えさせられました。

ふれあいルーム秋の遠足

教育支援センター(ふれあいルーム)

11月8日(金)に生駒山麓公園へ遠足に出かけました。今年度は、生駒駅から生駒山麓公園まで約3.2kmの登山コースを登りました。前日までとても寒い日が続いていたため無事に登れるか心配していましたが、遠足当日は天候に恵まれ、参加したルーム生たちは笑顔でお互いに声をかけ合いながら登っていました。



山麓公園に到着してからは、素晴らしい景色を目前に、芝生の上でお昼ご飯を食べたり、レクリエーションをしたりして楽しみました。ルーム生たちは、登山後とは思えないほど元気いっぱい大きな声をかけ合いながら、チームで協力してレクリエーションに取り組んでいました。また、自由時間では持参したおやつを交換したり、直径100mを超える広大な広場で鬼ごっこをしたりしていました。いつもあまり大きな声を出さないルーム生が大きな声を出して走り回っている姿や、あまり話したことのないルーム生と笑顔で話している姿がありました。子どもたちにとって、仲間とともに過ごす楽しい1日になったようです。



ルーム生のふり返しには、「最初は山に登るのがキツかったけど、苦しさを上回る楽しさがあったので良い思い出になりました」「中学生になってこんなに楽しかった遠足はこれが初めてだったのですごく良かったです」「友だちや先生、あまり話したことのないルーム生とも協力して山を登ることができたので、いろんな人と協力して頑張るという団結力を学びました」などの感想が書かれていました。

9月センター通信でもお伝えした通り、今年度は縄手北小学校・縄手東小学校・縄手北中学校・上小阪小学校・上小阪中学校の5校を研究協力校として、総合的な学習の時間を軸に、探究的で教科横断的な視点を取り入れた学びに取り組んでいます。

STEAM教育の実践

実社会、実生活の問題に対し、子どもたちが「なぜ〇〇なんだろう」と自ら問いを立て、各教科での学習（知識・理解）をもとにして、**試行錯誤**を繰り返しながら、「どうすれば実現できるのか」**創造力を働かせながら解決する力**を育てていく。
何より子どもたちの好奇心を大事にし、「わくわく」「ドキドキ」する学びにする。



取組みの紹介

<縄手北小学校>

「商店街における自分たちの役割を考える」をテーマにして、探究活動を進めています。10月30日（水）には、これまでに調べてきたことを整理・分析し、各自が考えている取組みの発表交流をしました。「一番人気の商店街にするために」「気づいてなかった商店街の特徴」など、様々な視点からの発表があり、参加者からの「なぜ?」や「もっとこうしたら…」といった疑問や意見の交流も活発にされていました。今回の交流をもとに、グループでの探究活動をすすめ、商店街をよりよくするためのことを考えていく予定です。



<縄手東小学校>

「枚岡神社の祭りをもとに、学んだ文化・伝統を全国に発信する」をテーマに、4年生が地元での伝統的な枚岡神社の祭りを改めて見直す中で、フィールドワークを行ったり地元の方に聞き取りを行ったりしてきました。そして、それぞれが感じた祭りの魅力をポスターにまとめ、地域に貼り出しました。現在は、祭りの「さらなる発展」や「魅力」を全国に発信するべく、自分たちができることを探究中です。2学期の終わりには、今まで取り組んできたことのまとめ・表現の場として、保護者や地域の方々へ向けての取組み発表を予定しています。



<縄手北中学校>

2年生の子どもたちが「キミが誰かを笑顔にする」をテーマに取り組んでいます。まずは、身近な人やテレビ・新聞などで知った人などで「困っている人」について各班で考えました。そこから「困っている人」について、「原因」や「助けるアイデア」を話し合い、他の班と企画を交流しました。現在は、「困っている人にとっての理想の状態とはどんな状態か」「実現可能か」といった視点から、交流した意見をもとに、自分たちの企画を見直しているところです。

今後、校外に出て調査を行ったりさらに情報収集をしたりしながら、企画をブラッシュアップしていきます。



<上小阪小学校>

4年生の子どもたちは、1学期、身の回りのごみや水などの環境問題に関わる学習を行いました。

また、使用済みとなったPCの解体ワークショップは、都市鉱山と呼ばれる家庭等で眠っている金属資源をPCを解体しながら見つけていくという、子どもたちにとって大変貴重な経験になりました。

そうした中で、「そもそもごみって何だろう」「身近にあるごみのゆくえは?」「日本と世界でごみの事情はどう違う?」等、子どもたちのこれまでの学びや経験をつなぎながら、自分たちが暮らす日本と世界を比べ、自らの課題に向けて探究を進めています。



<上小阪中学校>

1年生が「インクルーシブな社会・文化を構築する」というテーマで、障害のある方々との交流を通じて、ともに暮らすために解決しなければいけない社会課題を考えました。探究を進めていく中で、3Dプリンターやプログラミングを使って、試作品を作成し、実際に役立つ解決策を模索しました。最後には、発明交流会でポスターセッションを通して自分たちのアイデアを発表し、いろいろな人々からフィードバックを受けました。この経験を通じて、生徒たちは社会課題に対する意識を高め、より良い社会の実現に向けた一歩を踏み出しました。

